

令和4年度  
北陸地域国際物流戦略チーム 幹事会 議事概要

日時：令和5年3月1日（水）14:00～16:00  
場所：万代シルバーホテル 5階 万代の間  
方式：対面・オンライン会議（Microsoft Teams）併用形式  
出席者：55名（会場：25名、WEB：30名）

■意見交換・質疑

（構成員）

- ・ 農林水産品の輸出促進について、現状日本では都道府県ごとに輸出している状態であるが、今後はオーストラリアのように国全体で輸出に取組みをするということか。

（構成員）

- ・ 産地間競争するだけでなく、地域間で協調すべきところは、オールジャパンとして国全体で取り組んでいく。このため、改正輸出促進法に基づく品目団体を中核として、オールジャパンで輸出促進に取り組む体制を整備したところであり、効果は今後出てくると考えている。

（構成員）

- ・ 海外輸出に関して産地間競争をしているという実感はある。海外輸出において国全体で取り組むべきである。

（構成員）

- ・ BCPの訓練について横展開（東北地域や中国地域、また太平洋側）を図っていくべきと考えられるが、他地域との連携状況はいかがか。

（事務局）

- ・ 現状は各地整の担当で情報共有は図っている。特に東北地域に関しては地理的にも近いので、今後連携を図りたい。

（構成員）

- ・ 北東アジアとの交流は情勢的に難しいところもあるが、物流は動いているため、今後も北東アジアとの連携に向けて取り組みを続けていただきたい。
- ・ 農産物の小口混載の取り組みは中長期的に見ると大口化が重要になってくるので、それに向けた集貨・加工施設等の整備を推進してはどうかと思った。

（構成員）

- ・ 北陸では中小規模の食品事業者が多く、ロットが確保しづらいため、現状では、小口で

効率的に輸出することに重きを置いて推進しているが、将来的には大口化を目指して取り組んでいく。

(構成員)

- ・ BCP 及び 2024 年問題を含めたモーダルシフトもあり、RORO 船の大型化が進んでいるが、これに対応した岸壁施設能力を確保する必要がある。
- ・ また高規格ユニットロードターミナルの整備に併せて土地利用（レイアウト）の抜本的な見直しも必要ではないか。

(事務局)

- ・ ご認識の通りである。現在敦賀港を対象に高規格ユニットロードターミナル整備のため、RORO 船の当該ターミナルへの集約化（土地利用見直し）を検討している。

(構成員)

- ・ 東南アジア諸国が有望な市場であることを踏まえ、競争戦略を念頭に置いた取組みが必要。競争戦略を持つため海外での日系企業の取組みを促進する必要があるが、これに北陸地域がどのように関わっていくかを考えていく必要がある。そのために委員会メンバーに JETRO に参加頂くことが良いのではないか。
- ・ 農水産物の輸出取組に関しても JETRO の参加に加え、食品の輸出を手掛けている民間企業（賞味期限を延ばす研究などを実施している企業）に参加して頂き、取組み等を伺うのが良いのではないか。

以上